

第218回 番組審議会

1. 日 時 平成25年1月15日(火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 12名
出席委員数 8名(欠席委員数 4名)

○出席委員(敬称略)

中村 慶久(委員長)
竹中 陽一(副委員長)
—以下50音順—
木戸場美代子
久慈 浩介
東海林 千秋
原 圭介
八木橋 伸之
吉田 浩次

○会社側出席者(7名)

佐藤 滋樹(代表取締役社長)
小原 忍(専務取締役)
藤澤 利憲(常務取締役)
前田 秀男(取締役編成技術局長)
藤原 銀司(取締役営業局長)
工藤 哲人(岩手めんこいテレビ東京支社営業部)
鎌田 淑子(めんこいエンタープライズ制作部)

○事務局 佐々木 久仁子

4. 議題 『スーツを着たサムライ～新渡戸稲造「武士道」伝説』
12月23日(日) 13:00～13:55

5. 議 事 概 要

今回は12月23日(日)の午後1時に放送された『スーツを着たサムライ～新渡戸稲造「武士道」伝説』を審議しました。議事の概要は以下の通りです。

● 岩手めんこいテレビ 工藤プロデューサーの説明

- ・「武士道」で有名な新渡戸稲造は昭和8年にカナダで亡くなっているが、5ヶ月前に岩手に戻り三陸大津波の被災者を激励する講演を行っていたことはほとんど知られていない。その時残した言葉は「Union is power (団結は力なり)」。この言葉を被災者への言葉と受け取った。
- ・新渡戸生誕150年にあたる2012年、この機を逃さずに新渡戸稲造の功績をメディアとして広く県民に伝え、さらに盛岡から全国に発信したいという思いで番組を制作し、「もりおか武士道サミット」も開催した。

● めんこいエンタープライズ 鎌田ディレクターの説明

- ・番組制作にあたり新渡戸の本を読み、読めば読むほど魅力を感じ好きになっていった。
- ・初めて新渡戸稲造に触れる人にも分かってもらえるよう、1時間飽きずに色々な人に見てもらえるようにと、肖像、対談、再現、新渡戸の精神を受け継ぐ人々の紹介と4つの構成に分けて配置した。

● 出席委員からの意見・感想

- ・学者、教育者、哲学者、外交官とマルチな顔を持つ新渡戸稲造を知ることができた意義深い番組であった。
- ・日本人が誇りを持って外国人と対等に付き合っていこうと先鞭を切ったのが新渡戸であった。新渡戸の精神や功績をもっと発信するべきである。

- ・ 1時間の中に多彩な新渡戸の偉業がコンパクトにまとまっていて、入門篇としてよくできていた。
- ・ 新渡戸の生い立ちの再現VTRや研究家がナビゲートするスタイル、対談などを盛り込んだ演出は、理解力を深め飽きることなく見る事が出来た。
- ・ スーパー表記で見難いところがあった。年代表記は西暦だけではなく年号も一緒に表記してほしい。
- ・ 岩手の偉人として新渡戸を知り、改めて「武士道」を読んでみよう、新渡戸を勉強してみようと思うきっかけになった。
- ・ 当時の時代背景から、平和に対する新渡戸の思いを入れてほしい。
- ・ 新渡戸の功績を多くの人に知ってもらい、グローバルな若者の育成につなげて欲しい。
- ・ 「武士道」の精神を持つ新渡戸が、メアリーさんと国際結婚にいたるエピソード等も紹介してほしい。
- ・ 網羅的になり物足りなさを感じた。「武士道」について、もう少し掘り下げて紹介してほしい。今後も新渡戸稲造を紹介する番組を作っていてほしい。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

* 平成25年1月16日(水) 産経新聞 東北版

* 平成25年1月26日(土) 午前4時30分から4時45分まで「めんこいテレビ批評」内で放送

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし